



# 乳幼児の事故を 予防しよう！③

## ～転倒～



消費者庁と国民生活センターが共同で行っている医療機関ネットワークによると、0・1・2歳児の事故の原因として最も多いのが「転落」事故、その次に多いのが「転倒」事故です。今回は「転倒」事故についてお伝えします。

「転倒」による事故は2歳で第1位、0・1歳でも2番めに多い事故のきっかけですが、危険の程度は軽症の割合が多く、けがの大半は切り傷・擦り傷・打ち身です。

年齢別にみると、0・1歳児は歩行が不安定なためか、転んでテーブル等にぶつかりけがをしたケースが目立ち、さらに月齢でみると7か月から増え始めます。また、0歳ではベビーカーに乗っていてベビーカーごと転倒したケースもみられます。

1・2歳児では、自転車による転倒が増え、1歳で第2位、2歳では第1位です。子どもを乗せていて転倒し、頭を打ってしまったケースもみられます。

表1 年齢別転倒に関連した物品

0歳		1歳		2歳	
ぶつかった物等	件数	ぶつかった物等	件数	ぶつかった物等	件数
机・テーブル類	54	机・テーブル類	132	自転車	150
ベビーカー	36	自転車	118	机・テーブル類	86
いす類	34	いす類	85	階段	64
床	28	床	71	いす類	63
自転車	21	他の家具・寝具	58	床	51

医療機関ネットワーク情報に寄せられた件数  
(2010年12月～2015年11月)より

**事例1** ソファーにつかまりながら伝い歩きをしていたところ、つまずいて転倒し、左側頭部を金属パイプ製のテーブルの脚にぶつけた。左側頭部付近にやわらかいこぶがあったが受診しなかった。翌日の夜、けいれんがあり、受診すると硬膜外血腫があり入院。(11か月女児)

**事例2** ベビーカーの後ろにかけた荷物が重く、ベビーカーごと転倒した。ベビーカーから放り出されなかったが、頭頂部が赤くなっていた。頭頂部打撲。(5か月男児)

**事例3** 日常的に歯ブラシをくわえたまま歩かずに注意していたが、くわえたまま歩いて転倒して右頬に刺さった。転倒したところは見ていないが、クッションにつまづいたかもしれない。右頬部に発赤と脂肪組織の脱出あり。CTにて深達度が深いことも予測され緊急入院4日間。(1歳7か月女児)

**事例4** 自転車の前座席に乗せてヘルメットを装着したが嫌がったため顎のベルトはしていなかった。後部座席に兄を乗せようと兄を連れに行ったところで自転車が左側へ転倒し、そばにあった鉄の柵で頭頂部を打撲し、1cmほどの腫脹と左前腕骨骨折。(2歳6か月女児)

